

京都市基本計画策定推進本部第3回本部会議 本部長訓示

平成22年11月4日（木）

消防庁舎7階作戦室

皆様御苦労様です。

本日、ここに「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン」と命名された新たな基本計画の案をまとめることができました。

ここにお集まりの本部員をはじめ職員の皆さんに大変な御尽力を頂いたことに、まず心から御礼申し上げます。

昨年7月、全庁を挙げて基本計画策定の取組を進めるため、推進本部を設置し、キックオフ宣言を行いました。

続く9月には、基本計画の策定方針を決定し、新たな基本計画を徹底した市民参加と徹底した職員参加により、多くの市民の皆様と職員の英知と汗で練り上げることを確認致しました。

以来1年4箇月にわたり、幹事会や分野別のワーキング、各局におけるワーキングなどを幾度も積み重ね、推進本部において侃侃諤諤の議論を行ってきたところであります。これにより、審議会に対する適切な資料の提供と同時に、本市としての意見をしっかりとまとめ、積極的に提案していただきました。

また、審議会情報の発信や迅速・的確な市会への報告、更には、各行政区の基本計画の策定委員会をはじめ、170を超える関係団体・行政機関に対する説明と意見聴取など、丁寧な情報伝達、意見聴取等に努めていただきました。

同時に、基本計画審議会におかれましては、尾池和夫会長を先頭に、京都を代表する70名の委員の方々によって、ワークショップ形式を採り入れていただくなど、創意工夫を凝らしていただきながら、37回の会合、延べ参加者519人、審議時間90時間、実に5,400分、長期に及ぶ、大変熱心で真摯な議論を行っていただきました。

また、審議過程において、900人の方々からのパブリック・コメントで御意見をいただき、600人の若者からの提案、更に2,500人の子どもたちからの絵画などの大変楽しい、夢のある提案をいただきました。

多くの市民意見、更には、今回、まさに獅子奮迅の活躍を頂いた「未来の担い手・若者会議U35」が大きな大きな役割を果たしていただきました。

その「未来の担い手・若者会議U35」の意見にも審議会として十分に耳を傾けていただき、丹念に深い議論を重ねていただきました。

このように、徹底した市民参加と徹底した職員参加の下、審議会の皆様の専門性と行政の課題意識、更には市民、若者、多くの皆様の夢と希望が見事に融合され、素晴らしい計画案ができたと思います。京都市として自信を持って市会に提案できる計画案になったと考えております。

本計画案は、「都市経営の理念」の標題であります「生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く」という言葉に象徴されるように、従来の行政計画を超えた「共汗型計画」として、市民、NPO、企業、大学など多様な主体と行政とが、夢と希望、危機感と責任感、役割分担と行動を共有するという共汗の考え方が徹頭徹尾、計画のはじめから終わりまで貫かれております。地域主権時代における総合計画のモデルとなるものと言えると私は思います。

また、この計画案は、50年後、100年後を見通しつつ、京都の都市の特性をきちんと踏まえた「環境」、「文化」、「地域コミュニティ」、「伝統と知恵による産業」、「学び」とともに、若者からの提案であり希望である「真のワーク・ライフ・バランス」を加えた6つの未来像と、その実現に向けた11の重点戦略が明示され、同時に、財政改革有識者会議の提言も反映した行政経営の大綱が一体として策定されております。

激動の時代にあって、今こそ、確かな現状認識に裏打ちされた希望を語る積極的なメッセージが求められるなか、この計画案は、「京都市民の幸せと京都の発展のために今後10年間で何を目指し、何をすべきか」といった、ポジティブな感覚による徹底した未来志向とともに、厳しい財政状況を踏まえた政策の優先順位など、実現に向けた道筋を描く徹底した戦略性の追求によってまとめられた、まさに「京都の成長戦略」というべきものであります。

来週に、市の計画案と致しまして11月市会に提案し、十分市会において審議をしていただいたうえで議決いただくこととなります。市会の場においてもしっかりと丁寧に説明し、質疑に万全を期していただきたいと思います。

厳しい財政状況を踏まえながら、夢と希望に溢れた政策を描くことは大変難しいことではあります。しかしながら、決して矛盾することではありません。矛盾させてはなりません。

ピンチはチャンスであり、過酷な状況であればあるほど、素晴らしい知恵が生まれ、想像力を発揮し、共に汗して立ち向かう行動力が発揮されます。今後、京都市の10年間の成長戦略とも言える政策と財政構造改革の一体的な推進に共に全力を傾注して参りたい、そのように考えます。

この基本計画は、現在、区長、担当区長等が御苦労いただき、区民ぐるみで策定中の各行政区の基本計画とともに、私たちに希望と困難に立ち向かう勇気、確かな道筋を指し示す「未来へのシナリオ」であります。

今後、このシナリオを手に、決して縮み志向になることなく、また、変化の傍観者になることなく、徹底した未来志向、プラス思考で市民の皆様と共に汗して京都の未来を切り拓いていきたい、そのように考えております。

引き続き職員の皆様には大変な御苦労をおかけすることになりますが、所属職員の皆さんの健康管理にも十分意を用いていただき、モチベーションを高めて、この基本計画、また議決後は実行計画を策定していただきますが、楽しみながら未来志向で大いに頑張っていきたい、そのように思います。

私を先頭に全職員が一丸となって、輝かしい未来の京都づくりに邁進する新たな10年のスタートを切っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。